



# 姫工祭 本気で創る姫工祭

## 各科の色を全開で



発行所  
兵庫県立姫路工業高等学校  
姫路市伊伝居 600 番地 1  
(079) 284-0111  
編集発行  
新聞部  
編集責任者 小畑 咲良

### 親族限定の一般公開

11月1日(火)と2日(水)に姫工祭が開催された。今年も3年ぶりに近しい形となり、家族に自分の頑張っている姿を見に来てもらったという方も多かったのではないだろうか。

生徒の皆さんは、本番に向けて、計画的に準備を進めて来たことだろう。残念ながら3年生による食品バザーなどの模擬店は実施することはできなかったが、展示や販売、ステージ発表等により、一人一人が魅せるオーラは十分に輝いていた様子だった。実習等で制作した作品の展示にも圧倒されたが、姫工祭らしい面白い創作物にも気合が入っていて驚かされた。販売では各科の販売物以外にも、個人で用意した商品も見られ、二つ丁寧に仕上げられていて買いたくなるようなものばかりだった。ブースも大変賑わっており、微笑ましく感じた。そして特にステージ発表では、2日とも大勢の観客の前で堂々とした演技やクソツと笑ってしまおうような映像作品など見ることができた。来年も今年同様に個性豊かな発表になることを期待している。

さて、今年のAOSも体育館を壮大に飾ってくれた素直なファッションショーだった。今回のテーマは「善と悪」昨年よりも一歩進化した。観客の目に留まるように見えた。テーマに合わせたモノクロの衣装は、例年とはまた違った魅力に溢れていた。モデルの皆さんから放たれる眩しい光は観客の目を奪ったことだろう。

コロナ禍で様々な制限があったが、無事終わることができて、本当に良かった。

(3D 山田)

### 実習教材茶室

最近、体育館近くの芝生に大きな建築物が設置されているのをご存じだろうか。皆さんも一度は授業等で周辺を通る時に見たことがあるのではないだろうか。その正体は「実習教材(茶室)」である。今回詳しい内容を聞くべく、機械科の嵐先生にお話を伺った。この実習教材は、11月頃から3年生の課題研究として制作しており、日本家屋を通して色々な伝統技術や技法を学ぶという趣旨があるそうだ。制作過程は、竹を縦、横と格子状にして壁を立て掛け、壁土を貼る。粗壁の状態から乾燥させ、塗り、最後に漆喰、炭づけとなる。取り組む中でやはり、苦勞したことや大変だったこともあったそうだが、屋根に登っての作業では楽しい反面、油断すると事故に遭ってしまうかもしれないという危険性もあるそうだ。上と下で作業が行われる時もヘルメットを着用するため、作業を通して自然と安全教育にもつながっているそうだ。新しい最先端機械を使って、ものづくりをするのも楽しいが、人の手がたくさん加わった方が、少しずつ出来上がる面白さとワクワク感があってオススメ!とメッセージを頂いた。完成は来年になるそうだが、次の後輩にも先輩が築き上げてきたものほしくって引き継いでいってほしいと思う。(3D 山田)



▲作業風景



▲壁の骨組が見える



あかつき中学校校章

姫路市教育委員会からの要請で、新しく新設される夜間中学校の校章をD科の生徒たちがデザインすることに決まった。1年生から3年生まで全員で考え、1次審査で8名に絞られた。さらなる要望に手直しも加えられた後、市長による最終決定がなされた。2D万壽本恰耶さん(御津中)の作品が採用されることとなった。

「空に向かって飛ぶ白鷺をイメージし、生徒の皆さんの未来が希望に満ちて広がっていく願いを込めて表現しました。白鷺の姿はひめじ、ひのでの「ひ」の字を表現しています」



電動ドリルカート

放課後の校内、何やら不思議な改造を施したキックボードを走らす生徒たちを見かけたので取材した。生徒は1Rの野上君(安室中)藤井君(東中)山中君(高丘中)の3人。次の日、加西で行われる「ドリルカートGP」大会に向けての最終調整中だった。キックボードには電動ドリルを取り付けてあり、それがタイヤを動かすようになっていて、補助輪が左右に付いているので、二輪なのか四輪なのかよくわからなかったが苦勞して製作されているのはよくわかった。次の日、大会は雨天のため中止となったが、今後に期待したい。



2月15日、2年生の一部(EDWR)は書写山田教寺を訪れた。普段ロープウェイを使って登っている377mの山を今回は徒歩で登った。途中崖のような道があったが、クラスのみならず協力しなるとか登りきることができた。クラスの絆が深まった登山だった。

書写山にはコケが多いらしく、ハイゴケ、コスギゴケ、ウマスギゴケなどをはじめ、200種類のコケが見られる

うだ。中でもクマノゴケ、ホソバノキンチャクゴケなどはとても珍しいものらしい。少しでも興味のある方はぜひ書写山に行ってみよう。(2D 小林)

### 高校生ものづくりコンテスト

8月10日に行われた近畿地区大会にて優勝し、11月12日、13日に富山県で行われた第22回高校生ものづくりコンテスト全国大会自動車整備部門に出場した3M1の木野拓海さん(置塩中)に話を聞いた。

コンテストには「点検」「測定」「エンジン」故障の探求の4つの種類の試験があり、ものづくりコンテストに挑むために、木野さんはそれらの過去問にたくさん取り組んだそう。また、早く作業ができるよう繰り返し練習し、安全に気を付けて丁寧に作業ができるよう努力したそう。大会では、近畿大会のように結果が残せるように頑張りたいと強い意気込みを見せてくれた木野さん。全国大会では入賞こそ逃したものの、第4位(敢闘賞)と健闘した。(2D 小林)

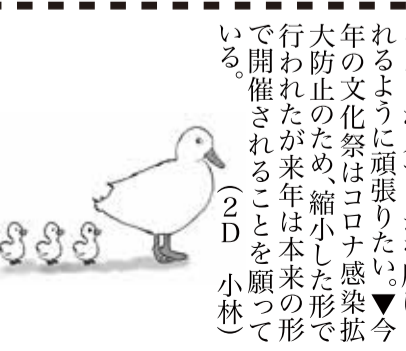


▲競技中風景



3M1 木野拓海 さん

### 自動車整備 全国大会出場



(2D 小林)

▼今年の文化祭はどうだっただろうか。自分の納得のいく物は作り出せたのだろうか。私は今年AOSのモデルとしてAOSに参加し、綺麗な衣装を着てランウェイを歩いた自分を見て私も挑戦してみたいと思った。しかし衣装を自分で作るのには初めてで課題との両立に苦戦した。自分の納得のいく形にするのに大変時間がかかったが、イメージ通りの衣装を作ることができて良かったと思う。今年は自分のことだけで精一杯だったが、来年は私たちが3年生として後輩たちを引っ張っていかねばならない。来年も感動させられるようなステージを届けられるように頑張りたい。▼今年の文化祭はコロナ感染拡大防止のため、縮小した形で行われたが来年は本来の形で開催されることを願っている。

▼2学期も終わりに近づき次の行事がやってくる。2年生の皆さんはインターンシップはどうだっただろうか。インターンシップで学んだ事、これから学校生活や行事に生かしていきたいと思おう。▼私は建築設計事務所にお世話になった。建築図面をかいたり家の模型を作ったりと普段出来ないようなことを多く体験させてもらった。その中で私が一番心に残っていることは、町家再生の現場を見学しに行ったことだ。古い町家を取り壊して新しく建て直すのではなく、今ある素材をそのまま使用することで廃材がなくなり、地球環境に優しいものになっている。地球環境問題が多く挙げられている現在、どの業界も工夫して地球環境を守っていくことが大切だ。私たち一人一人ができることを考えて実行していきたい。(2D 黒田)

### 沈黙工